

岡山中学校・岡山高等学校 いじめ防止基本方針

令和 8年 4月

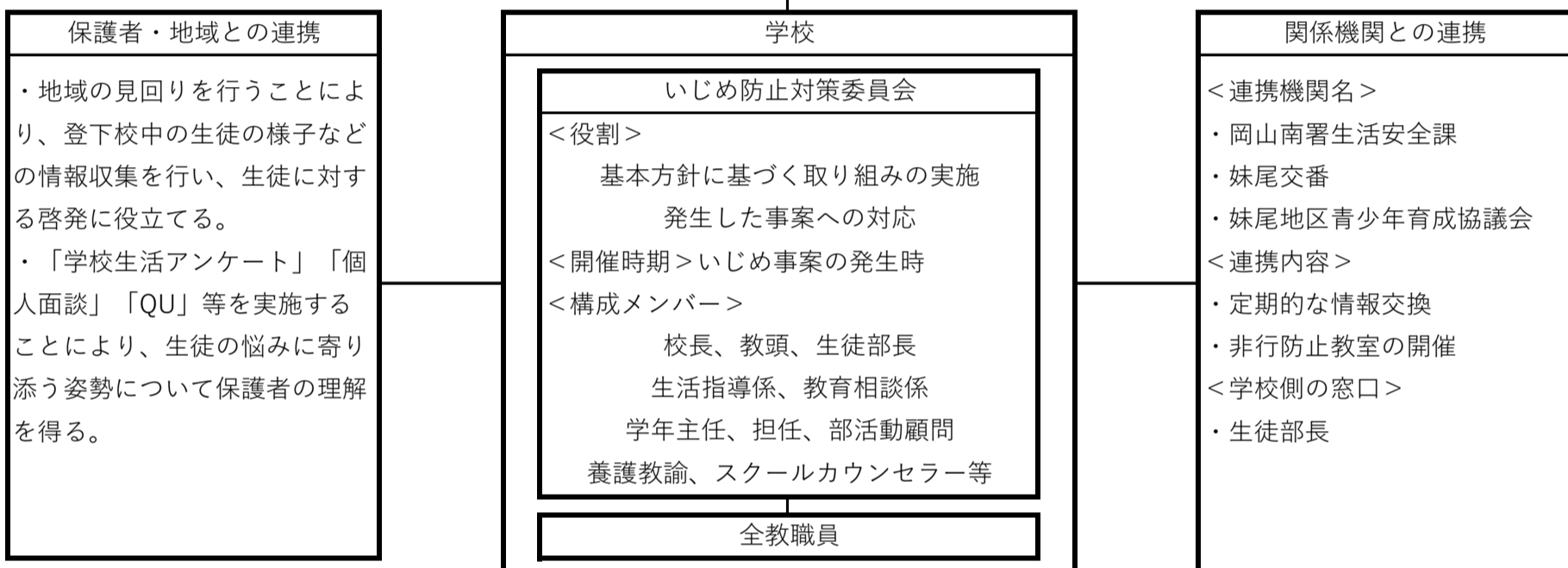
いじめに関する現状と課題

本校は、中学校9クラス、高等学校9クラスの計18クラスの中高一貫校で、ほとんどの生徒が中学校から高等学校までの6年間を一緒に生活している。大きな人間関係のトラブルはないが、最近はSNSを利用した問題行動が一定数確認されており、実際に保護者や本人から相談が寄せられている。いじめに発展する前に、未然に防ぐための啓発を行ったり、教員の研修の充実をはかったりする必要がある。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であり、また、どの生徒でも被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、教職員は、日頃からささいな兆候を見逃さないように努め、問題を一人で抱え込んでしまわないよう、学校全体で組織的に指導に当たらなければならない。

何より学校は、生徒が教職員や周囲の友人と信頼できる関係の中で、安心・安全に生活できる場であることが大切である。生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組まなければならない。また、実体験の乏しい生徒が、さまざまな体験活動等を通して人間的に成長できる取り組みの充実を図ることを目指す。



本校が行ういじめの防止等に関する取り組み

未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を充実させ、全ての教職員がいじめに対する共通理解をもち、適切にかつ迅速に対応できる力を養う。 ・教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育・体験活動の充実を図る。 ・体罰はもとより教職員の言動がいじめを助長することのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。 ・「情報」などの授業を通じて、情報を発信することに伴う責任を理解させ、適切に情報機器を利用できる力を養う。
早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、生徒のささいな兆候から、いじめを積極的に認知するように努める。 ・いじめを認知またはいじめの疑いがある場合は、速やかに「いじめ防止対策委員会」に報告をし、組織的に対応する。 ・年2回「学校生活アンケート」を実施し、生徒がメッセージを発しやすい環境を整える。 ・年2回のQU及び生徒・保護者面談の結果を効果的に利用し、生徒の状況把握に努める。また、教職員で振り返る。 ・教育相談の充実を図る。
対応	<p>被害生徒</p> <p>訴え → 事実</p> <p>担任・学年団</p> <p>訴え</p> <p>《校長・教頭》</p> <p>報告</p> <p>《学年主任・担任》《養護教諭》 《生活指導係》《部活動顧問》</p> <p>指示</p> <p>報告</p> <p>《生徒部》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの判断をする ・対応を検討する ・役割分担を行う ・指導原案の作成 <p>《全教職員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全教職員で対応にあたる <p>被害生徒の保護</p> <p>関係生徒の保護</p> <p>家庭訪問・来校依頼にて事情説明</p> <p>共通理解</p> <p>関係生徒</p> <p>事実確認</p> <p>連携</p> <p>《教育相談係》《関係機関》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー ・スクールアドバイザー ・スクールソーシャルワーカー <p>○ていねいにじっくり話を聞く。 ○どうしてほしいか要望も聞く。 ○一人でいじめの判断をしない。</p>